

ICHIKYO
市響

市川市春季文化祭

交響樂の午後

225th



平成4年

1992年6月7日(日) PM 2:00
市川市文化会館大ホール
市川市教育委員会 市川交響楽団協会 共催

プログラム

管 弦 楽

楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」…… R. ワーグナー (1813-1883)

第1幕への前奏曲

交響詩「ドン・ファン」……………R. シュトラウス (1864-1949)

————— 休 憩 —————

交 響 楽

交響曲 第7番 イ長調 作品92……………L. ベートーヴェン (1770-1827)

第1楽章 ポコ・ソステヌート —— ヴィヴァーチェ

第2楽章 アレグレット

第3楽章 プレスト

第4楽章 アレグロ・コン・ブリオ

指揮：金子建志

管弦楽：市川交響楽団

出 演 者 紹 介

金 子 建 志 (指 揮)

昭和23年3月千葉県生まれ。41年県立千葉高等学校を経て東京芸術大学音楽部楽理科に入学。音楽理論を柴田南雄氏に指揮法を渡辺暁雄氏に師事する。



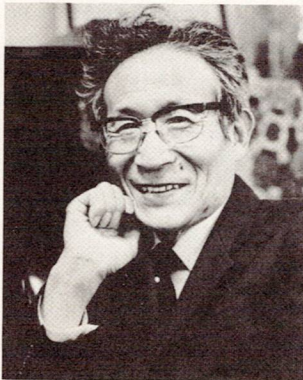
45年同校を卒業後、指揮法を斎藤秀雄氏に師事。47年3月市川交響楽団の「第九」交響曲の演奏会で渡辺暁雄氏のアシスタントをつとめるとともに、同楽団の指揮を行なう。この間、海野義雄、安川加寿子、宮沢明子、深沢亮子、館野泉、浦川宜也氏らと共演。48年よりNHK・FMのクラシックアワーの解説者をつとめる。

51年よりNHK・FMの海外の音楽の解説者をつとめる。昭和62年12月市川オペラで「魔笛」を指揮、大成功を収める。

昨年(平成3年)6月には市響40周年「日中交流コンサート」で現代中国の交響楽作品を指揮、紹介した。

今年の秋には中国瀋陽音楽院の招きで、瀋陽市での演奏会の指揮を予定している。

村 上 正 治 (団 長)



団長は、君津郡袖ヶ浦町横田出身の牧師である村上治氏の長男として、1914年に新潟県村上町で誕生されました。明治学院中学部卒業後同校高等部商科に進学しましたが作曲希望で中退、音楽修業に専念、1935年国立音楽大学作曲部に入学して卒業後は市川小をはじめ中央国民学校や市川高女、市川一中、市川二中に勤めながら市川文化会や市川混声、市響、市響吹奏楽、ジュニアオケ、行徳混声を結成して指導にあたり、県音楽教育研究会や全千葉合唱連盟、県吹奏楽連盟、千葉交響楽団協会、県及び市川市の両芸術文化団体協議会、日本アマチュアオーケストラ連盟、全日本文化団体連合会等をも組織し、文化振興に貢献したかどで過去に市川市教育委員会、千葉県知事、文化庁長官の文化功勞を受賞していましたが、62年秋、勲四等瑞宝賞を叙勲されました。また、さる5月18日には市川市長より第1回「市民榮譽賞」を受賞されました。現在国立音楽大学の評議員でもあります。

曲 目 解 説

楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」

R・ワグナー

第1幕への前奏曲

ワグナー（1813～1883）はドイツの作曲家で主に歌劇やさらに歌劇をもっと音楽によって演劇的にした楽劇といわれる音楽劇を数多く作曲しました。彼はドイツに古くから伝わる神々や歴史・民話などを題材に自分で台本を書いて作曲をしました。

「ニュルンベルクのマイスタージンガー」は中世の職人や徒弟たちの親方による歌合戦を題材としたユーモアにあふれる喜劇で、マイスタージンガーとは音楽家であった親方たちのことをいいます。

今日これから演奏される第一幕への前奏曲は、幕の前に演奏される雄渾な響きの力強い音楽です。その中に出てくる旋律は劇中の音楽からとられていて、はじめに明るさにみちたマイスタージンガーの堂々とした動機（旋律）がオーケストラ全体で演奏されます。その後愛の動機や情熱の動機などさまざまなテーマが出て、最後にマイスタージンガーの行進の動機が金管楽器などによる大変な盛り上がりによって演奏され曲をしめくくります。

私達はこの曲を練習している時に、その次第に旋律が積み上げられていって曲の終りに至る迫りにいつも圧倒されます。どうぞご期待下さい。

（ヴァイオリン：永田 匡）

交響詩「ドン・ファン」

R. シュトラウス

私にとって理想の女性は……………!!

いない、どこをさがしてもいない。いない。……………!!

理想の女性はいるのだろうか。いない。……………!!

ドン・ファンとは、理想の女性を追い求めた男の名である。

しかし理想の女性は見つからなかった。かれは次々と女性を誘惑し捨てていく。

挫折。絶望。最後にドン・ファンは自ら地獄へ落ちていく。

曲中に理想の女性はたびたび姿をみせる。ヴァイオリンソロであり、クラリネットオーボエと幻のようにたびたび現れる。一方ドン・ファンの主題が、ヴァイオリンホルンで力強く提示される。後半にドン・ファンの主題が華々しく鳴りひびき勝利を確信するが、ドン・ファンは地獄につきおとされる。

最後にひっそりとこの曲は終わる。

R. シュトラウスはこの曲を24才、1888年に作曲している。彼は交響詩を7曲作曲している。交響詩とは文学的、絵画的な内容と結びついた、標題音楽の一ジャンルで、リストが創始したものとされている。それ以後、各国の作曲家が推し進めてきたが、これを徹底的に推し進めたのが、R. シュトラウスである。この曲でモチーフとしてとりあげたドン・ファンという男性とは、実はR. シュトラウス自身であったのかもしれない。

（ヴァイオリン：堤 哲児）

交響曲第7番 イ長調 作品92

L・ベートーヴェン

この曲が完成したのは1812年5月13日、ベートーヴェン42歳のときのことである。彼の交響曲の完成年をみると、第1番の1800年から第6番の1808年に至るまで、ほぼ2年ごとに生み出されているのに、この第7番が完成するまでは4年近い歳月がある。それは1809年にウィーンがナポレオン軍に占領されたりして、思うように仕事ができなかったためといわれている。

第7番はこのような悪条件のもとで作曲されたにもかかわらず、のちにワーグナーが「舞踏の聖化」と評したように、全曲にわたって“リズム”を重用するという新しい試みがなされており、それがみごとに成功している。だが一方では、これに面くらった人もいたようで、クララ・シューマンの父、フリードリッヒ・ヴィークなどは、とくに第1楽章と第4楽章について「酔っぱらったときに作曲したのではあるまいか。」と言ったとか。

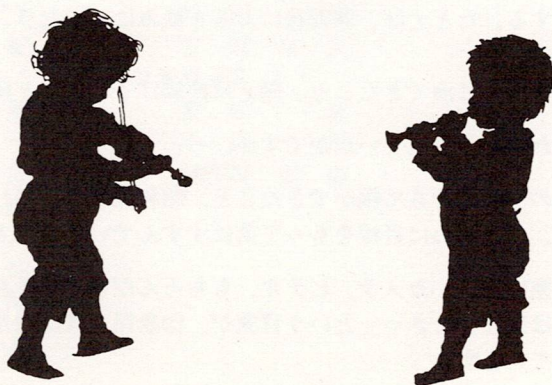
——以上は1986年6月の市響35周年記念コンサートのときの曲目解説からの引用です。今回、この曲の解説を再び担当することになったので、少し楽をさせてもらいました。

さて、この第7番が完成から180年を経た今日でも、ベートーヴェンの交響曲の中で根強い人気を保っているのは、躍動的な、生命力を感じさせるリズムにあふれているからではないかと思われれます。

去る4月28日の東京駅エキコンで演奏したときに、指揮の金子先生がこの曲について、裏拍にアクセントのついたオフビートを用いている点が、当時としては画期的だったという意味の解説をされていました。いわば“ロックのはしり”ともいえる音楽のひとつだとのことでした。

日頃演奏しながら、のりがいい曲だと感じていたのは、こういうわけだったのかと納得した次第です。きょうもその調子で演奏することができればと願っております。

(ヴァイオリン：亀井 玲子)



かつて私は、ある知り合いで、市響の演奏会に度々来ていただいている方から次のような質問を受けたことがあります。

「ビオラで白髪の御老人はお元気ですか?。」

なにをおっしゃいます。ビオラには白髪の方はいらっしゃいますが、御老人はおりません。

今回登場していただく齋藤さんは、市響で最高齢者であり、市響での活動は30数年に亘りますが、ますますお元気でエネルギーに活躍されています。

入団間もない私にとって市響のこと、人生のこと教えられることは、次から次へとひっきりなしにあります。

40周年記念誌にも若干のコメントがありましたが、今回この場を借りて、独占インタビューを試みました。どれだけ齋藤氏の魅力に迫られたか心もとない部分もありますが、われらが齋藤さんの人となりをお楽しみください。

Q ヴァイオリンを最初始められたそうですが、どういうきっかけで始められたのですか?

A 昭和8年に福島から東京農業大学に入学するため東京に出てきました。先に東京にいた兄が、ヴァイオリンをやっていた関係で始めたんです。当時新響のヴァイオリン奏者に個人レッスンを受けました。発表会を日本青年館でやったことがあって、バッハの2番のコンチェルトを独奏したことがあります。

Q 市響に入団するきっかけはなんだったんですか ——

A 昭和30年に小岩4中に就職して、下総中山に下宿したんです。同じ下宿に市響にいた人がいて、その人に誘われたのがきっかけです。

Q 市響は30年前と比べて変わりましたか ——

A 大きな変化はないと思います。ただし管楽器の人の上達が目ざましいと思いますよ。ソロとして恥ずかしくない人は大勢いらっしゃる。それに比べて弦楽器はまだまではないですか。

Q 市響の特色とはなんでしょうか ——

A それは昔と、あまり変わっていないと思いますが、仲間意識といいますか、音楽を離れたところでも親しくする。たとえば、練習後にお茶を飲みに行ったり、お酒を飲んだりすることじゃないですか。

それと著名な演奏家と共演できたこと、例えば前橋汀子さんなど印象深いです。

Q 長い間音楽に関わってこられていかがですか ——

A 仕事以外の人との交流ができて幅ができたこと。昭和52年に退職してからも退屈することもなかったですよ。またつねに目標をもって前にすすんでいけることではないですか。

退職されてからは家庭菜園、カメラ、ビデオ、もちろんヴィオラとお忙しい日々を送られています。最後に「人生は楽しまなきゃ」という言葉が、印象深く耳に残りました。これからも益々の御活躍をお祈りしています。

齋藤氏プロフィール

大正3年(1914)福島県白河生まれ。昭和8年東京農業大学入学後、ヴァイオリンを始める。農大オーケストラを創始。昭和30年市響入団。入団後ヴィオラへ転向。現在にいたる。その間、小岩4中に就職され、昭和52年退職。

本日の出演者

第1 ヴァイオリン

陽子
子司子
子行匡
子司子
子芳代
子

山井優
西本律
本井誠
井木玲
尾淳
田浩
原祥
山村和
村田忠
渡辺康
昭

第2 ヴァイオリン

秋雄
理子
み児
和雄
子夫
子子
千子
紀子
紀

西井千
本久
川惠
林洋
守哲
宮弘
田伸
沢し
延裕
上葉
木美
村真
岸万

ヴィオラ

美一
一郎
継み
祐昭
子一
雄淳
繁子

田和綾
藤英
高十一
竹行
福内
星井
松上
村田
横山
若林
渡部

チェロ

之美
和清
扶子
一進
二之

田久
沢由
川頭
田村
村口
原田

コントラバス

子二
彦則
之乃
子

内田葉
河内惠
菊地克
鈴木重
三輪泰
村上信
李隆

フルート

ひろみ
純一
真論紀

大山
木村
木村

オーボエ

淳子
知子
かおる

荒井
宇田川
寺山

クラリネット

也雄
久

多田
時野
吉智

ファゴット

哲厚
道安

金坂
小島
戸川

ホルン

正平
夫し
晴治

野藤和
村泰
田恒
山内
山口

トランペット

晶明
一宏

浅岡
安藤
一新

トロンボーン

昭樹
繪子
至

久保
久秀
谷妙
野夕
藪崎

チューバ

鉄雅

渡辺

打楽器

治子
子彦

岩橋
木村
丹羽
松浦

ハープ

なほみ

水野